

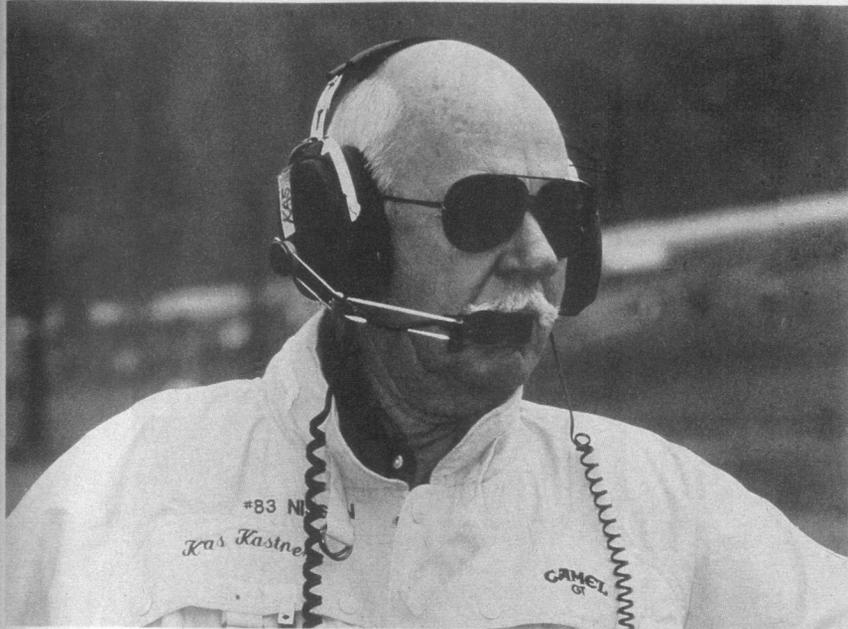
新ルール用のニッサンCカーはV12 シャシーの設計はNPPT-1が担当

先日、ニッサン・パフォーマンス・テクノロジー(NPPT)関係者が語ったところによると、ニッサンの来シーズン用のグループCカーは、NPPT-1で設計、製作されることが決定した模様だ。'91年からの新しいレギュレーションに合わせたマシンには、3・5ℓV型12気筒エンジンが搭載され、このエンジンは日本で作られるようだ。

ニッサンの町田叔グループC総監督は「いちおう、そういう計画はありますが、まだ決定したわけではありません」と先日の菅生500kmの会場で語っていた。しかしNPPT-1では「すでにトレバー・ハリスが

このプロジェクトに取り掛かっている」とコメントしていることもあり、近々、ニッサンからグループCプロジェクトに関する正式な発表があると思われる。

昨年の暮れにエレクトラモーターからニッサン傘下のNPPT-1になって以来、同チームでは従業員を大幅に増員。現在では136人を抱える巨大なチームとなっている。そしてNPPT-1では、今回のニッサン・グループCプロジェクトと、来年はプライベートに販売されると言われているGTPシャシーの製作のために、さらに50人ほどの増員を計画している。



キャス・キャストナー率いるニッサン・パフォーマンス・テクノロジーはどんなシャシーを設計してくるか?

スチュワート、初のGTUタイトルを獲得

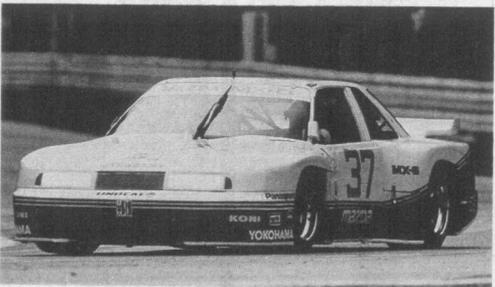
9月2日にサン・アントニオで開催されたIMSA GTU/GTUシリーズ第11戦で、マツダ・ワークスのMX-6に乗るランス・スチュワートが4位に入り、初のGTUチャンピオンに輝いた。

今シーズンからワークス活動を始めたマツダには、スチュワートとジョン・フィンガーが乗っていた。チームメイトのフィンガーの上げた勝利が、ロングビーチでの1勝に対してスチュワートは今シーズン3勝(トベカ、ポートランド、ロード・アメリカ)を挙げている。さらに2位3回、3位2回、4位3回とすべてのレースでトップ5に入り、ポイントを稼いでいたのだった。

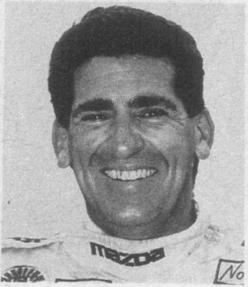
またGTUマニファクチャラーズ・タイトルは現在マツダが87点、ニッサンが72点、ダッジが152点となっており、こちらは残り3戦、11月11日に開催されるデル・マーのレースまで決着はつきそうもない。

スパイス・ランボルギーニが初テスト メルセデスC11を上回るタイムをマーク!

WSPCドントンでランボルギーニを搭載したマシンを発表したスパイス・エンジンアライнгは、レース翌週の9月5日、同じくドントンで初のスパイス・ランボルギーニのシエイクダウンテストを行った。このテストでスパイスは、前週のレース中にマウロ・バルディがメルセデスC11でマークしたラップレコードを上回るタイムをマークしている。ドライバーはブルーノ・ジャコメッリ。タイムは一分23秒2。またDFR搭載のマシンと比べても、平均して1ラップあたり1・5秒も速いタイムで連続周回をこなしたという。



ドライバーズに続きマニファクチャラーズも狙うMX-6



チャンプのスチュワート

テストを担当したジャコメッリとティム・ハーベイは、合わせて50ラップを周回。しかもこれは、ランボルギーニ・エンジンを搭載したスパイスとしては初めての実走テストだったのだ。トラブルもなくテストは順調のうちに終了している。

「シエイクダウンだからあまりハードには走らなかった。回せば回すほどパワーは出るし、振動は本当に僅かなものだ」とジャコメッリは語っている。

ハーベイも「パワーの立ち上がりが見えかねたので、シャシーの挙動がつかみやすくドライブレやすい」とコメントした。

前人未踏の IMSA

'79年のデイトナ24時間レースで、デビュー2年連続で優勝した。デビュー12年連続で優勝し、初のIMSA GTUクラスで活躍して、9月2日のレースで優勝し、初のIMSA GTUクラスで優勝した。デビュー12年連続で優勝し、初のIMSA GTUクラスの快挙である。

RX7は'85年に7回優勝を挙げ、それまでポルシェ・カレラRRが持っていた単一機種による最多勝記録を破った。またこれまで9回獲得していたGTUマニファクチャラーズ・タイトルで、'88年から'87年までの8年連続はIMSAの最長記録となっている。

今回、記念すべきRX7での勝利を記録したのは、GTUクラスにエントリーしているピーター・ハルスマーだった。序盤はドーシー・シュレイダーの駆るクーガーがリード

バンクーバー
今年初めてバンクーバーのIMSA GTUシリーズで、コースが死亡するという痛手を生じた。亡くなったのはリック・ヒーン氏。享年47歳。事故はシケンでマシンを、数人のオフィシャルに発生した時に発生したウィリー・T・リ